

令和7年度 第1回 浜松市美術館協議会

日 時 令和7年8月18日（月）

午後2時から午後4時まで

場 所 浜松市美術館 2階 応接室

次 第

1 開 会

2 浜松市美術館協議会委員の委嘱書・任命書の交付

3 浜松市市民部文化振興担当部長あいさつ

4 浜松市美術館長あいさつ

5 美術館協議会委員自己紹介

6 美術館職員紹介

7 議 題

（1）会長の選出について

（2）会長職務代理者の指名について

（3）令和6年度浜松市美術館事業報告及び内部評価について

（4）令和6年度浜松市秋野不矩美術館事業報告及び内部評価について

（5）その他

8 閉 会

浜松市美術館協議会委員名簿

No.	選出区分	氏 名	経 歴 等
1	学識経験者	サウ 佐藤 キヨリ 聖徳	静岡文化芸術大学 名誉教授
2	学識経験者	アラカワ 荒川 トモ子	静岡文化芸術大学 デザイン学部 デザイン学科 准教授（学科長補佐）
3	学識経験者	カニ 寛 ユウ子	浜松学院大学 地域共創学部 准教授
4	社会教育関係者	イトウ 伊藤 ハナキ 典明	（公財）浜松・浜名湖ツーリズムビューロー 事業部長
5	社会教育関係者	ウチ 伊内 ヒロヤス 弘康	浜松市浜北文化協会副会長
6	社会教育関係者	イシガミ 石上 ミチヨ 充代	静岡県立美術館 学芸課長
7	学校教育関係者	イマダ 今田 トオル 徹	浜松市立篠原小学校 校長
8	学校教育関係者	スズキ 鈴木 ヤヤ 矢々	浜松市立笠井幼稚園 園長

令和6年度 浜松市美術館評価

基本理念

「明日への希望を見出す美術館」

誰もが気軽に立ち寄れる憩いの美術館であることで、美術との出会いの場を広げます。

都市の拠点として国内外の優れた作品や地域ゆかりの作品の鑑賞の機会、人々の参加・交流により市民が心豊かになる美術館を目指します。

総評

令和6年度の展覧会開催については、館蔵品を活用した企画展を2展覧会実施し、全国巡回している展覧会を1展覧会開催した。浜松ゆかりの洋画展では、館蔵作品を中心として企画を考えたが、他館から作品を借用し、展示する作家の制作の変遷が確認できるような展示が実現できたことは成果となった。来館したお客様からの情報で、今まで不明であったことが明らかになったことは、展覧会の開催意義となった。また、同時開催をしたひっぱりだこ展は、浜松市美術館に対して貸し出し依頼が多くあった作品を展示する企画であった。今後本館が所蔵する多くの館蔵品を展示する際には、これらのように視点を変えた展示が必要となると感じている。巡回展では、7名の女性切り絵作家を扱った展覧会を実施し、展示する作家のギャラリートークを行い好評を得た。その他の展覧会においても多くのギャラリートークを実施したが、来館者の作品理解が深まり、今後も積極的に行っていきたい。一般公募の市展では、高校生の作品が市長対象を受賞するなどし、若い世代のお応募も増えていることから、今後も幅広い世代の応募を期待している。

1 展覧会

優れた美術を鑑賞できる展覧会を開催し、来館者の裾野を広げます。

(1) 平常展

展覧会	開催期間	開催日数	観覧者数	目標	達成率	顧客満足度
小杉惣市コレクションの金銅仏(五胡十六国時代～隋時代編)	R6.4.13-6.2	44日	6,815	55,000	77%	93%
小杉惣市コレクションの金銅仏(隋時代～唐時代編)	R6.6.22-9.15	78日	19,531			
北川民次のガラス絵とメキシコ土偶	R7.1.8-1.22	13日	11,274			
	R7.2.22-3.26	28日	4,811			

※顧客満足度は、来館者アンケートにおいて「満足」「やや満足」と回答した割合

内部評価

取組内容	課題
■金銅仏 - 企画展や特別展の来館者が、金銅仏やガラス絵など多様なジャンルの作品に触れる機会を提供し、美術の普及およびコレクションの豊かさを周知した。 - 金銅仏は、作品に影響のない範囲で可能な限り展示室全体の照度を上げ、作品本来の色や形を鑑賞できるようにした。(白色LED) ■北川民次のガラス絵とメキシコ土偶 - 静岡ゆかりの作家である北川民次のガラス絵6点と、メキシコ土偶5点を展示した。展示室には北川がガラス絵やメキシコ土偶について触れている文章をパネルにして設置し、作品理解に繋がった。 - メキシコ土偶については恐らくこれまで展示されたことがなかったが、メキシコの風土を色濃く反映した北川作品と合わせて展示することで公開する機会を設けることができた。また、今回の調査で北川のガラス絵の元となった油彩画や挿絵をいくつか特定することができた。今後も館蔵品の調査研究を進めていきたい。	- 館の構造上、第三展示室は奥まった位置にあり、展示室を回る来館者の導線から離れてしまっている。案内看板を目立つように設置したり、目録に掲載している展示図面にも記すなど新しい試みをしたものの、いまだに気付かない来館者もいる。これまで以上に分かりやすい導線表示と積極的なアナウンスに努めたい。 7000点以上ある館蔵品のうち、企画展や作品貸出等で展示の機会を得られる作品はごく一部である。今後はそれらの作品を中心に調査研究を進め、館蔵品の周知、ひいては浜松市の文化レベルの向上に寄与していきたい。

展覧会	開催期間	開催日数	観覧者数	目標	達成率	顧客満足度
第72回市展	R7.2.22-3.26	28日	4,811	5,000人	87%	89%

※顧客満足度は、来館者アンケートにおいて「満足」「やや満足」と回答した割合

《取組内容》

部門	R 5 応募	R 6 応募	うち入賞者	
絵画	油絵	-	84	市長大賞 1 奨励賞 14
	水彩	-	59	
	日本画	-	23	
	その他	-	24	
	小計	184	190	
写真	70	71	大賞 1	奨励賞 4
彫刻	6	9		奨励賞 2
工芸	25	23	大賞 1	奨励賞 2
書	31	23	大賞 1	奨励賞 2
合計	316	316	4	24

《来館者アンケート結果》

アンケート項目	
住まい	市内77.1% 県西部4.2% 県中部0.0% 県東部1.0% 愛知県6.3% その他11.4%
年代	10代以下8.2% 20～30代15.5% 40～50代17.5% 60～70代49.5% 80代以上9.3%
来館頻度	1回目33.0% 2回目以上（1年以内）24.5% 2回目以上（1年ぶり以上）42.5%
展覧会情報の取得方法	ポスター23.1% 友人知人20.2% HP13.5% 広報はままつ8.7% X3.8% チラシ3.8% 年間カレンダー2.9% 新聞1.9% その他22.1% TV看板等0.0%
満足度	満足61.1% やや満足27.4% 普通6.3% やや不満4.1% 不満1.1%
スタッフ満足度	満足55.8% やや満足14.7% 普通27.4% やや不満2.1% 不満0.0%
展示理解に必要なもの	作品解説大表示34.1% ギャラリートーク13.6% 講演会11.4% 年表10.2% QRコード解説6.8% 音声ガイド5.7% その他18.2%

内部評価

取組内容	課題
・今回で72回目となる市展には計316名応募があった。絵画部門の審査は遠藤彰子氏と石黒賢一郎氏に、彫刻部門は田中毅氏に、書部門は広瀬舟雲氏に、工芸部門山本一樹氏に、写真部門は大森克己氏に審査を依頼した。審査の結果、入賞260点、入選28点、さらに各部門から大賞を1点選び、その中から市長大賞1点を決定した。 ・今回は絵画部門の志村茉美さん（高校3年生）の作品《まいご》が市長大賞に選ばれた。カラフルな色合いと毛糸の装飾、物語性のある画面が目を引き、来館者からも好評であった。 ・市展の趣旨である美術の創作と鑑賞を勧め、郷土の文化・芸術の向上を図る機会の提供に寄与することができた。	・応募作品全316点すべてを展示したため、展示室がやや過密状態となった。 ・こどもの市展と比較すると、例年来館者数が伸び悩むものの、市展終了後も春の展覧会に合わせ大賞作品4点を展示公開することで、市展の存在を広く周知することに務めた。

(2)特別展

展覧会	開催期間	開催日数	観覧者数	目標	達成率	顧客満足度
7人のミューズ展—日本の切り絵—	R6.6.22-9-15	78日	19,508	30,000	65%	95%

※顧客満足度は、来館者アンケートにおいて「満足」「やや満足」と回答した割合

《来館者アンケート結果》

アンケート項目	
住まい	市内58.5% 県西部14.6% 県中部2.7% 県東部10.0% 愛知県3.7% その他10.5%
年代	10代以下27.1% 20～30代16.5% 40～50代30.3% 60～70代23.8% 80代以上2.3%
来館頻度	1回目32.7% 2回目以上（1年以内）40.0% 2回目以上（1年ぶり以上）27.3%
展覧会情報の取得方法	TVラジオ23.4% 友人知人13.1% HP12.7% ポスター11.5% X5.6% チラシ5.6% 新聞5.6% 広報はままつ4.4% 年間カレンダー2.4% その他15.7%
満足度	満足78.9% やや満足16.1% 普通2.3% やや不満1.8% 不満0.9%
スタッフ満足度	満足60.3% やや満足16.4% 普通19.6% やや不満2.3% 不満1.4%
展示理解に必要なもの	作品解説大表示26.9% 音声ガイド24.5% ギャラリートーク15.3% QRコード解説10.2% 講演会8.3% 年表7.9% その他6.9%

内部評価

取組内容	課題
・日本で活躍する女性切り絵作家である蒼山日菜、福井利佐、松原真紀、SouMa、柳沢京子、筑紫ゆうな、切り剣Masayoの7人の作品、計113点を一堂に会し、現代の多様な切り絵表現を紹介した。 ・静岡県出身の福井氏に、本展に合わせ新作の制作を依頼した。完成した《浜松》は、浜松にちなんだモチーフがちりばめられた力強い作品となり、人気を博した。また、本作をメインビジュアルに使用することで、巡回展ながら当館の独自の試みを強調した。 ・現存作家の展覧会である点を生かし、作家を講師に迎え多種多様な関連事業を実施した。ギャラリートーク5回、サイン会4回、ワークショップ2回を開催し、参加者数は計510人に及んだ。出品作家から直接、展示作品や切り絵の魅力を伝えることのできる貴重な機会となり、イベントには県外からの参加者も多くみられ好評を博した。 ・切り絵は小中学校の授業で取り上げられることもあり、会期中には計17団体・669人の利用があった。また出前授業1回を行った。解説の際は対象に合わせてわかりやすい説明を心がけた。また取り上げる作家や作品を変え、参加者の興味関心を引き出すよう工夫をした。 ・共催の静岡第一テレビを中心に、開幕前日の生中継をはじめテレビ取材7回、新聞記事7回、ラジオ出演1回、ネットニュース2回に取り上げられるなど広報にも注力した。	・目標30,000人であったが来館者数が思うように伸びず苦戦した。理由としては、集客を見込んでいた夏休みの時期に記録的な猛暑や災害級の大雨に見舞われたことが考えられる。前売り券の販売枚数は大変好調であったことから、開幕当初は目標達成も見込まれたただけに残念な結果となった。夏休みの時期に開催する展覧会は、今後も異常気象による影響が少なからず予想されるが、引き続き積極的な広報に務めたい。

(3) 企画展

展覧会	開催期間	開催日数	観覧者数	目標	達成率	顧客満足度
浜松ゆかりの洋画展 ・ ひっぱりだこ展	R6.4.13-2024.6.2	44日	6,815	15,000	45%	92%
小杉惣市コレクション 名品でたどる 東洋陶磁-小杉惣市の眼-	R6.10.12-12.15	56日	4,220	10,000	42%	95%

※顧客満足度は、来館者アンケートにおいて「満足」「やや満足」と回答した割合

《来館者アンケート結果》

アンケート項目	
住まい	市内74.3% 県西部10.6% 県中部3.2% 県東部4.6% 愛知県1.8% その他5.5%
年代	10代以下29.1% 20～30代15.4% 40～50代25.0% 60～70代29.1% 80代以上1.4%
来館頻度	1回目22.0% 2回目以上（1年以内）47.2% 2回目以上（1年ぶり以上）30.7%
展覧会情報の取得方法	HP16.0% 友人知人14.6% チラシ12.5% ポスター10.9% 新聞10.5% TVラジオ10.1% 広報はままつ4.7% X3.5% 年間カレンダー1.6% その他15.6%
満足度	満足66.7% やや満足25.6% 普通5.5% やや不満1.4% 不満0.8%
スタッフ満足度	満足60.1% やや満足18.8% 普通18.3% やや不満1.4% 不満1.4%
展示理解に必要なもの	音声ガイド22.5% 作品解説大表示20.3% ギャラリートーク19.4% QRコード解説11.9% 講演会9.7% 年表7.9% その他8.3%

内 部 評 価

取組内容	課題
■浜松ゆかりの洋画展 ・岸田劉生をはじめ、北蓮蔵、曾宮一念と、同時期の浜松ゆかりの洋画家の作品を一堂に展示した。館蔵品を中心としながらも、岐阜県美術館、静岡県立美術館、福島県立美術館、豊橋市美術館、上原美術館等、全国各地の美術館の協力を得て、格作家の画歴とその変遷を追った系統的な展示を実現することができた。 ・各作家の活躍の背景には浜松の支援者（パトロン）との関係性を明らかにし、年表や関係図にまとめることができた点は、本展における調査研究の成果といえる。また、これまで不明であった 北蓮蔵『竹内益三郎肖像』のモデルが当館来館者からの情報をきっかけに明らかになった。館蔵品の展示によって浜松の近代の 絵画界の実態の一部が明らかになった展において、本展開催の意義は大きかったものと評価できる。 ■ひっぱりだこ展 ・過去10年間に浜松市美術館が全国・世界の美術館・博物館に貸し出した実績のある作品のみで展示を構成する初の企画であった。展示作品のジャンルは日本画、大津絵、浮世絵、ガラス絵、油彩、工芸とバラエティに富み、渡辺華山、歌川広重、月岡芳年、小出樗重、オディロン・ルドン、池田学等、全国的知名度と人気の高い作家が名を連ねた。浜松市美術館のコレクションの層の厚さや幅の広さを改めて示すと同時に、全国・世界の美術館・博物館から借用を希望される優品を多数所有していることを改めて市民に広く示すことができた。 ・教育普及活動の実施を前提とした展示構成・展示順、空間づくりを心掛けたことで、十分なスペースを確保したうえでの対話型鑑賞、教育的視点での学びの流れを意識した展示解説等を実施することができた。親子対話型鑑賞会や教員向け授業づくり研修会等を併せて実施することができた。教員向け授業づくり研修には、小・中学校、高等学校の教員、教育委員会職員や美術館教育普及担当者等の参加があった。	■浜松ゆかりの洋画展 ・動員面は予測を下回る結果となった。本展の目玉となる作家は岸田劉生であったが、作品数は洋画展の3分の1程度であり、館蔵品が中心のラインナップであったことも影響して、訴求力が乏しかったものと思われる。有名な麗子像を上原美術館から借用でき、後方のメインビジュアル据えたものの、効果は限定的であった。一方で、学術的な調査研究の進展のためには、動員のみでの評価によらない地元ゆかりの作家・作品を取り上げることは、地方の公立美術館の使命でもある。調査研究の進展と動員の確保の両立を図るための方策を探り続ける必要がある。 ■ひっぱりだこ展 ・著名作家を含む充実したラインナップであったが、動員増への効果は限定的であった。館蔵品展については、美術館のリピーターにとっては過去に鑑賞済みの作品であることが多く、動員が振るわない実情がある。今回はそういった意味で、同じ作品でも「ひっぱりだこ」という新しい切り口を提案した。今後も既成概念に捕らわれない柔軟な切り口を考案し、館蔵品の価値や魅力を広く周知し続けていく必要がある。

《来館者アンケート結果》

アンケート項目	
住まい	市内66.5% 県西部12.4% 県中部1.4% 県東部1.4% 愛知県9.6% その他8.7%
年代	10代以下10.9% 20～30代10.4% 40～50代35.3% 60～70代39.3% 80代以上4.1%
来館頻度	1回目25.9% 2回目以上（1年以内）38.9% 2回目以上（1年ぶり以上）35.2%
展覧会情報の取得方法	HP19.5% ポスター19.5% 友人知人14.9% チラシ12.0% 広報はままつ7.9% X5.4% 新聞5.4% TVラジオ2.1% 年間カレンダー1.7% その他11.6%
満足度	満足63.2% やや満足31.8% 普通3.2% やや不満1.8% 不満0.0%
スタッフ満足度	満足65.9% やや満足16.1% 普通16.1% やや不満1.4% 不満0.5%
展示理解に必要なもの	作品解説大表示26.1% 音声ガイド18.7% ギャラリートーク16.7% 講演会11.8% 年表11.3% QRコード解説8.5% その他6.9%

内 部 評 価

取組内容	課題
■名品でたどる東洋陶磁展 ・小杉惣市コレクションは、浜松市出身の実業家小杉惣市氏が後半生をかけて蒐集した東洋美術のコレクションである。（約430点に及ぶ作品群は、陶磁器を筆頭に石仏や金銅仏など多岐の分野にわたる）氏の没後、ご遺族により当館に寄贈され、以降、内田コレクションと双壁を成す当館のコレクションの核として扱われてきた。 ・本展では、小杉惣市コレクションの中から東洋（中国、朝鮮）の陶磁器を展示した。当館のコレクションの核でありながら、約30年間研究の進んでいなかった東洋陶磁について、監修や協力の先生のご指導のもと最新の研究等を踏まえて情報を更新し、展示に還元することが出来た。 ・東洋陶磁に絞って展示をしたことで、殆ど全ての陶磁器を一堂に展示することができた。そして、氏が鑑賞陶磁の一環として中国と朝鮮の陶磁史の流れが概観できるよう体系的に蒐集されたことが改めて浮き彫りとなった。小杉惣市コレクションの中の陶磁器について焦点を当てるとともに、個別の作品研究も進めることができた。 ・小杉惣市コレクションは、氏が蒐集されるにあたっての経緯や方針等が残されていない点が大変惜しまれるが、ご遺族のお言葉を元に氏の生涯や人物像についてまとめ、また作品の保存箱や付属品等も調査対象として作品の移動状況や蒐集経緯等を把握することで、現時点での情報を集約することが出来た。 ・一見すると、お堅いイメージのある東洋陶磁の展覧会ということで、幅広い年齢層に気軽に楽しんでいただけるよう、造形の面白さに注目したシルエットクイズを作成した。 ・専門用語が多数ある陶磁器について、全作品名にルビを振ったり、用語解説を配布したりして、鑑賞の一助となるよう配慮した。	■名品でたどる東洋陶磁展 ・動員面は予測を下回る結果となった。絵画作品の展覧会と比べ、馴染みがない、小難しい、地味というイメージ等が当初より懸念されたが、払拭することができなかった。学校団体の見学や鑑賞の少なさにも表れている。今後は親しみやすいように、積極的に出前授業などを開催し、工芸品の魅力周知および美術の普及に努めていきたい。 ・直営での開催ということで、TVCM等での広報が出来ず、周知面が弱くなってしまった。 ・本展は、小杉惣市コレクションの中の東洋陶磁について再検証する事を目的とし、その過程で「藍地白花金彩龍文瓶」など中国陶磁史における個別作品の重要性等を再認識したが、広報面で苦戦したため、メインビジュアルに据えた意図等が広く伝わらなかったように思われる。また、全体を通して、館蔵品のみの展示ということで広報面の訴求力に欠けてしまった。 ・所蔵作品の調査研究展示は、地方の公立美術館の使命の一つである。調査研究の進展と動員の確保の両立を図るための方策を探り続けていきたい。

2 教育普及活動

市民の感性を育むため、美術に触れる機会と他者とのつながりを提供します。

(1) 団体鑑賞

事業内容		参加者数、実績（人）
学校や施設等の団体利用の受入れ		794
内部評価	成果	課題
・「7人のミューズ展」では、小学校等16団体の鑑賞申込みがあり、計669人の来館者を受け入れることができた。切り絵は小学校の図画工作科の学習で活用できる技法であり、鑑賞希望が多かった。		・東洋陶磁展では、団体鑑賞の申し込みが3団体に留まった。陶磁器の展示ということで、学校の授業で取り扱われることの多い絵画や彫刻の展示に比べ、鑑賞の希望は伸び悩んだ。一方で小杉コレクションの陶磁器は、浜松市美術館の核となる重要な作品群であり、その魅力を広く周知する方法を検討し続ける必要がある。学校団体については、近隣の学校だけでなく遠方の学校の来館にも繋がるよう、新たな切り口等を検討しながら積極的にアプローチしていきたい。

(2) ギャラリートーク

取組内容		参加者数、実績（人）
学芸員・作家等による作品解説		449
内部評価	成果	課題
・7人のミューズでは、福井利佐氏、切り剣Masayo氏によるギャラリートークが講評であった。福井氏のギャラリートークは、サイン会とセットで開催することで動員につながった。切り剣氏のギャラリートークでは名前の由来でもあるけん玉のパフォーマンスを取り入れ、大いに盛り上がった。こうしたユニークベニユーの要素を取り入れたイベントを今後も考案していきたい。		・東洋陶磁展では、来館者の伸び悩みもあり、ギャラリートーク開催による訴求力も限定的となった。小杉コレクションの陶磁器は浜松市美術館の核となる重要な作品群である。その魅力を広く周知するためにも、事前の広報活動等の見直しを検討していく必要がある。

(3) 講演会

取組内容		参加者数、実績（人）
作家・専門家等による講演		118
内部評価	成果	課題
・浜松ゆかりの洋画展では廣江泰孝氏（岐阜県美術館）と丸地加奈子氏（豊橋市美術博物館）、東洋陶磁展では、新井崇之市（町田市立博物館）と宮崎法子氏（実践女子大学名誉教授）による講演会をそれぞれ実施した。各展覧会のラインナップにそった研究者の招聘により、展覧会を通した最新の研究成果が、専門的知見から分かりやすく解説された。		・全ての講演会において、定員を下回った。講演会に関する広報は現状、チラシ裏面の一部、公式HP,公式SNSで行っているが、その情報が広く伝わっているとはいえない。また、今後はWifiの導入も含め、著作権等を考慮した上でインスタライブ等の生配信を行うなど、来館できない市民への情報公開も積極的に行っていきたい。

(4)学芸員講座

取組内容		参加者数、実績（人）
学芸員による館蔵品、地域ゆかりの作家・作品、文化財等に関する講座		138
内部評価	成果	課題
・令和6年度から新規に開始した企画である。各学芸員が自身の専門分野や研究内容に応じて、開催中の展覧会の内容に縛られることなく講演するというもので、今年度は吉祥図、仏像、ガラス絵、絵本原画と、バラエティに富んだ内容で実施することができた。特に絵本原画の講座は、親子での参加を含め、参加者募集開始から早々に定員に達した。講座内容に興味をもって来館した市民が、全く異なる内容の展覧会を鑑賞する機会の創出にも一役を買っている。		・概ね好評を得た企画であったため、次年度以降も内容を変えながら実施していく。浜松市美術館には7000を超える館蔵品があり、市内ゆかりの作家や作品、文化財も様々である。幅広いジャンルの講座を企画したり、類似するテーマでの取り上げ方を工夫したりすることで、幅広い市民のニーズに応えていきたい。

(5)ワークショップ

取組内容		参加者数、実績（人）
展覧会の内容に応じた表現・鑑賞の支援		106
内部評価	成果	課題
・「7人のミューズ展」では出品作家が講師を務める切り絵のワークショップが好評を博した。東洋陶磁展では「土に親しむ！ミニ盆栽の器を作ろう」と題して作家の馬淵誠氏を講師に迎えた。また、「プラ板で陶磁型のオリジナルブローチを作ろう！」は当館学芸員が講師を務めた。いずれの企画も定員に達し、表現活動を通して楽しみながら展示作品に慣れ親しむことができた。		・ひっぱりだこ展では、対話型鑑賞のワークショップを開催したが、参加者は伸び悩んだ。対話型鑑賞は作品に描かれた対象に対して参加者同士が自由に発言し、対話しながら鑑賞を楽しむ営みであるが、その意図が伝わりづらかったのかもしれない。今後も同様の取り組みを継続予定で、情報周知の仕方を検討したい。

(6)出前講座

取組内容		参加者数、実績（人）
美術館の収蔵品や展覧会等に関する講座、出張授業等（※他団体等主催事業への参加含む）		723
内部評価	成果	課題
・中学校での仏像講座、教員養成系大学での鑑賞教育に関する講演等、多様な依頼に対応することができた。仏像に関しては、展覧会は実施していないが、過去の展示実績から継続的に依頼をいただいている状況であり、今後も継続して取り組んでいきたい。		・美術館の利用は、実際に美術館に訪れることだけを指すものではなく、こうした外部での講座参加等についても美術館利用の形の一つと捉えていく必要がある。

(7)博物館実習、職場体験、教員研修など

事業内容		参加者数、実績（人）
実習・研修等（中学生の職場体験、大学生の博物館実習、教員研修等）の受入れ		71
内部評価	取組内容	課題
・博物館実習、インターンシップ、職場体験の受け入れ人数は例年通りである。ひっぱりだこ展で実施した「先生のための美術館講座」は、小中学校・高等学校の教員、教育委員会事務局等職員、美術館教育普及関係者の参加があり、実物の作品を前に教材開発のグループワークを実施した。3年目となる教員初任者研修の受入では、美術館教育普及活動の事例紹介、展示室内での対話型鑑賞の体験等、幅広い内容で実施できた。		・教員初任者研修の受け入れにちいて、教育センターより、この研修自体が令和6年度をもって終了するとの連絡があった。第4次教育総合計画に教育センターと美術館の研修での連携を明記したため、今後は相互の交流を含めた研修会の実施のあり方を検討していく。

3 その他

様々な人に開かれた美術館とし、施設・設備の充実と健全運営を目指します。

(1) 来館者アンケート ※洋画展、7人のミューズ展、小杉展、第72回市展にて実施

スタッフ対応満足度	施設満足度	施設に望むもの
77%	77%	カフェ 36%、レストラン15%、 常設展示室14%、体験型シアター14%、 図書コーナー13%、 デジタルシアター8%、

※満足度は、来館者アンケートにおいて「満足」「やや満足」と回答した割合

(2) 美術館設備

令和6年度に実施した修繕等	
・旗ポールロープ取替修繕 ・非常用照明取替修繕 ・加湿器修繕 ・消防設備修繕 ・手洗器水栓、和便器洗浄管修繕 ・空冷チラーユニット修繕	・加圧給水ポンプ水漏れ修繕 ・展示室硝子修繕 ・昇降機LED修繕

(3) 展覧会等の情報発信

令和6年度に実施した広報活動等
・ポスター掲示やチラシを配布したほか、展覧会共催者によるテレビCM等を活用した情報発信を行った。7人のミューズ展については、テレビCMによる広報の効果が大きく、洋画展と小杉展ではHPからの認知が大きく、HP改良の必要性が感じられた。 ・ポスターのデザインを決める際には担当だけでなく全職員で見やすさやデザインの観点から決定した。 ・若年層を取り込むため、SNSを活用した情報拡散に取り組んだ。企画会社や作品の借用先と交渉し、来館者に作品撮影の機会を設けるようにしている。館内にはX（旧ツイッター）やFacebook、InstagramのQRコードを掲示して容易にアクセスしやすくしている。 ・若年層に興味をもってもらうようにSNS投稿は柔らかな表現で発信している。近年のフォロワー数の伸びは著しい。（参考：7/30 現在のフォロワー数9,620）

■令和6年度 浜松市秋野不矩美術館評価

基本コンセプト

天竜二侯出身の日本画家で文化勲章を受賞した、秋野不矩の画業及び作品や関連資料を展示・保存・調査研究を通して全国に広く顕彰し、次世代に継承していく。

秋野不矩及び秋野不矩作品の一層の理解を図るため、特別展・所蔵品展を通して「『有為転変』変化してやまぬ創造の源」をコンセプトに、単なる知識伝達に偏らない多様な価値や多面的な作品理解を促す展示及び作品解説を行う。

併せて、教育普及活動により地域住民の美術をはじめとする芸術文化振興を図る。

また、地域の関係団体や企業、幼・小・中・高等学校等、商店街等と連携し、浜松市内中心部や周辺地域から天竜区への来訪を促し地域振興へつなげる。

総評

展示事業では、本館のコンセプトや年度テーマ・展示会テーマ等を意識した展示会を実施できた。

所蔵品展では、人・もの・こととの縁によって移り変わり変化しながらも存在し続ける思いに焦点を当てた展示を行った。素描と本画を並べて展示したことで、作家の試行錯誤を視覚的に捉えられることができ、来館者が制作意図を理解するのに役立っていたことがアンケートから感じられた。

特別展では、不矩と関わりのあった現代作家や想定客層を絞った展示会を企画し幅広い集客を試み、インスタレーションを取り入れた展示を行ったり家族層(特に子供)の来館を促す取組を行ったりした。また、館長や学芸員のギャラリートークを複数回行い、各展示会の魅力を伝えた。更に子供向け鑑賞ワークシートの作成や展示作品の人気投票など来館者参加型の企画を行い、どれも充実した内容の展示会となった。

地域への様々な取り組みとして、子供たちの校外学習、中堅教員研修、インターンシップ研修、高校生の社会体験研修等の受け入れや夏休み子供向けワークショップ開催、市民の創作活動の発表の場として企画展示室利用者支援、地域行事(やまもりアドベンチャースタンプラリー等)への協力等、教育普及や芸術文化振興等は前年度以上に増え、芸術文化振興に貢献できたと考える。

今後も地域や浜松市の文化振興の向上に貢献できるよう事業の充実を図っていく。

1 展示会

優れた美術を鑑賞できる展示会を開催し、来館者の裾野を広げます。

(1)所蔵品展

展示会	開催期間	開催日数	観覧者数	目標	達成率	顧客満足度
《有為転変》変化してやまぬ創造の源Ⅰ～流転～	R6.4.2～4.14	106	6,823	7,000	97%	98%
《有為転変》変化してやまぬ創造の源Ⅱ～脈～	R6.7.2～7.21					
《有為転変》変化してやまぬ創造の源Ⅲ～在～	R6.10.5～11.17					
《有為転変》変化してやまぬ創造の源Ⅳ～理～	R6.12.3～R7.1.13					
《有為転変》変化してやまぬ創造の源Ⅴ～是空～	R7.3.25～3.31					

※顧客満足度は、来館者アンケートにおいて「満足」「やや満足」と回答した割合

内部評価

取組内容	課題
・所蔵品展では、5つのテーマから不矩作品の創造の源流を辿る展示を行い、不矩の画業をわかりやすく具体的に紹介する展示を行なった。 ・所蔵作品のキャプションは前年度に引き続き解説を拡充し、展示会趣旨に沿って解説テキストを変更。複数回展示する作品には同じ表現で解説しないよう配慮し、リピーターにも満足感を提供できるよう対応した。 ・所蔵品展・特別展ともに、展示会ごとに全出展作品の目録を制作。前年度に引き続き、所蔵品展では各回の企画やそのコンセプトをわかりやすく記載することにより、来館者に作品への理解を深めていただけたようにした。	・テーマを定めて秋野不矩の画業を多面的・多角的に見ていく手法はそれなりに効果があったと思われるが、秋野不矩の全てを網羅できているわけでない。このため、さらにテーマを拡げ、欧米美術の影響や多様な絵画団体での作家交流などについて幅広く研究し、芸術表現の潮流から秋野不矩作品を明確に位置付けていく必要性を感じている。 ・本画の劣化防止への配慮から、素描や絵本原画等の展示を工夫しながら、計画的に本画を休ませるなどの配慮を今後も継続していく。

(2) 特別展

展覧会	開催期間	開催日数	観覧者数	目標	達成率	顧客満足度
内田あぐり 汜 Fluxes	R6.4.27～6.23	51	4,297	5,500	78%	77%
日本画☆動物園	R6.8.3～9.16	39	9,407	6,000	157%	97%
秋野不矩と高畑郁子ーインドとの邂逅ー	R7.1.25～3.16	44	4,092	4,500	91%	98%

※顧客満足度は、来館者アンケートにおいて「満足」「やや満足」と回答した割合

内部評価

取組内容	課題
■内田あぐり 汜 Fluxes ・現代日本画を代表する作家の一人、内田あぐりが生命の躍動を描いた7メートルを超える大作や近作の数々、原点である人間像やドローイングのほか、当美術館周辺を取材した新作を展示した。 ・当館の特徴的な展示室空間を生かし、来館者に空間全体を作品として体感してもらうインスタレーション展示を行った。内田あぐり作品と不矩作品を配置・構成し、空間そのものを大きな作品として成り立たせ、作品と壁や床との一体感のある空間を来館者に堪能してもらうことができた。作家の関係者が多く訪れ、美術関係者からも好評を得た。 ・作家が展覧会の新作として、天竜地区を流れる3つの河川をテーマとした作品や、阿多古地区の「阿多古和紙」に描いた作品を制作し展示した。 ・インスタレーションを記録するため、展示後に写真撮影を行い「図録」ではなく「記録集」の形で発行した。	・展示内容について美術関係者からは好評を得たが、特別展開催を知らず不矩作品が目的で来館した方の中には、内田あぐり作品が好みに合わずアンケートに不満を記載する方もいた。2F展示室は開幕初日に開催したワークショップで制作した作品を展示したため、全体の展示作品数も少なかったこともあり、満足度が他の展覧会よりも大きく下がる結果となってしまった。 ・新たな試みをおこない、当館としては今後の企画のためにも大変意義のある内容であった一方、一般の方には作品空間の魅力を十分に伝えることができなかった。会期を長くとっていたが、観覧者数も伸びなかった。 ・地元に関連した新作について、美術館周辺の地元の方へもっとPRできれば関心を持っていたかもしれない。
■日本画☆動物園 ・現代の日本画家たちの視点で描かれた様々な動物たちが一堂に会する展覧会。動物を描いた作品を通して、かけがえのないのちを感じることができる展覧会となった。 ・これまで当館の利用が少なかった親子で楽しめる企画として開催したため、具象表現の動物作品で、いろいろな種類の動物が描かれた作品を選定して動物園感を演出した。また、動物園にるように楽しんでもらうため、鑑賞しながら自由に会話をしてももらえるよう館内に掲示を出したり、子供向けワークシートを配布したり、館内で作品の人気投票をしたりと、来館者が展覧会を楽しむ仕掛けを用意した。 ・秋野不矩作品以外の作品撮影が可能だったこともあり、インターネットや口コミでの評判から来館に繋がった。	・来館者数が予想を大きく上回ったため、チケットの増刷が必要となるなど、展覧会終盤まで対応に追われた。 ・満車のため駐車場に入らず、帰ってしまう車があったと報告を受けている。駐車場整理の人を手配できれば良いが、開催前から入場者数の予想は難しいため、手配ができなかった。 ・来館者が1日400人を超えると受付アルバイトだけでは足りず、事務室の職員も受付・売店・監視に出る必要があり、内部業務を進めることが難しかった（1日最大616人来館）。
■秋野不矩と高畑郁子ーインドとの邂逅ー ・インドをテーマに革新表現に挑んできた秋野不矩と高畑郁子。二人の画家がインドと出会うまでの作品、インドとの邂逅後それぞれの眼差しで描いたインド作品、さらに新しい日本画表現へと挑み続けた軌跡までを紹介。高畑の華麗な色彩表現と、不矩の生命のバイタリティを可視化する表現を通して、人間の本質を捉えた作品を紹介した。 ・豊橋出身で令和4年度特別展で取り上げた中村正義に続き、豊橋の高畑郁子を紹介。愛知方面からの来館者が多くみられた。 ・「インド」をタイトルに冠した展覧会で、不矩作品を目的とした来館者にも高畑作品との対比が好評であった。	・来館者の満足度は高かったものの、冬の時期ということもあり来館者数が目標には届かなかった。満足いただけた方からさらにSNSなどで広めていただく工夫や仕掛けを考えていきたい。

2 教育普及活動

市民の感性を育むため、美術に触れる機会と他者とのつながりを提供します。

(1) 団体鑑賞

事業内容		参加者数、実績（人）
学校、地域の諸施設や、全国からの観光目的の団体来館・鑑賞を受け付ける。 希望する団体向けに秋野不矩の画業や人物像、藤森建築について理解を深める見学前ガイドを実施。		891（39団体※見学前ガイド実施人数）
内部評価	取組内容	課題
・希望する団体には見学前ガイドを実施した(39団体891人) ・見学前のガイドにより、最初に秋野不矩や当館の建築について学び、見学する上でのポイントを知ることにより有意義な見学・鑑賞を提供できた。 ・藤森建築への興味をきっかけに訪れる団体には建築の紹介を多くするなど、来館者の興味に合わせて対応している。		・館内が狭くスペースがないため、入館前に屋外の広場にてガイドを実施しているが、天候によって館外での実施が困難となる場合がある。特に夏の時期は年々厳しくなる暑さにより外での解説が来館者の負担になる。10名程度までの少人数であれば館内でも可能だが、大人数の場合は難しく、屋外では特に高齢者には実施時間を短くするなど配慮が必要。

(2) ギャラリートーク

事業内容		参加者数、実績（人）
展覧会担当学芸員や作家等が展示内容について解説する。 ・担当学芸員とゲスト学芸員による解説：秋野不矩と高畑郁子展 ・館長による解説：内田めぐり展、秋野不矩と高畑郁子展 ・作家等解説：内田めぐり展（3回実施） ：日本画☆動物園（2回実施）		383
内部評価	取組内容	課題
・展覧会に合わせて出品作家が直接語るギャラリートークを行った。作家から直接話を聞ける機会はとても貴重で、参加者が多く、参加者の熱意も高かった。		・第一展示室が細長いいため、ギャラリートークで参加者が多い場合、ギャラリートークに参加せず作品鑑賞をしたい人の通路の確保が難しい。 ・足の悪い方は立ったまま、移動しながらのギャラリートークの終盤では辛そうな様子が見られることがある。

(3) ワークショップ

事業内容		参加者数、実績（人）
・「日本画ワークショップ」 内田めぐりによる小～高校生までを対象とした日本画の画材を使って描くワークショップ。絵の具の溶き方などを学び、大きな和紙に共同制作として表現した。 ・「子ども向けワークショップ～動物にいのちを吹き込もう～」 日本画家栗原幸彦による小中学生を対象とした動物を描くワークショップを実施。鳥などの剥製を観察しながら、動物(いのち)を描く楽しさを伝えた。会場：天竜壬生ホール会議室		49
内部評価	取組内容	課題
・「日本画ワークショップ」にて共同制作した作品は、ワークショップ会場として使用した当館2階展示室に会期中展示したほか、クリエート浜松(7/19～21：ハマツクリエーターズフェス)、浜松学芸高校(11/2～13：オープンキャンパス開催日とその前後)でも展示し、作品を多くの方にご覧いただくことができた。 ・子供向けワークショップは進行速度が子供によって違うため、どの子でも取り組めるような簡単な内容のもの（今回はぬりえ）も事前に講師と話し合いながら決めている。そのため、参加者は時間内で楽しく取組むことができた。		・館内でワークショップを開催するための場所の確保が難しいため、夏のワークショップは毎回別の場所を有料で借りている。開催準備の負担が大きい。 ・子供向けのワークショップでも付き添いの大人が興味深く見ている。大人向けのワークショップも考えたいが、人員・予算ともに余裕が無い。

(4)教育普及講演会

事業内容		参加者数、実績（人）
出張講座、地区幼稚園での保護者向け講座、市内高校での出張授業を実施した。 ・出張講座 地域文化セミナー「天竜出身の画家 秋野不矩の絵と人生」 ・浜松市立光明幼稚園 家庭教育講座 ・浜松市立高等学校出張授業		34
内部評価	取組内容	課題
	・秋野不矩の作品だけでなく人物についても解説する講座を行ったことで、より深く秋野不矩を理解してもらうことができた。講座参加者がその後の展覧会に来館し、美術館の広報にも繋がった。 ・美術を専攻する高校生に学芸員の仕事やキュレーションについて出張授業を行った。その後、高校生は紙面上で展覧会を組むなどし、作品制作だけではわからなかった美術館の役割や作品表現について学んだ。	・出張講座や出張授業は外部から依頼があれば対応するという形をとっているが、今後秋野不矩や当館について市民の認知度を上げていくためには、出張講座が開催可能であることを積極的に案内していくことも必要。

(5)インターンシップ受入れ、教育プログラム受入れ

事業内容		参加者数、実績（人）
県内・近隣県大学の学生インターンシップの受入れ 職場体験・校外学習・教職員研修の教育プログラム等の受入れ		173
内部評価	取組内容	課題
	・大学生インターンシップ：2名 ・高校生職場体験：3名（天竜高校2年生） ・校外学習：164名（3校） ・教職員研修（中堅教諭等脂質向上研修）：4名 学生の実習、教職員研修では美術館監視業務や受付補助業務等を通して、芸術文化に携わる仕事において大切にしていることを学んでもらい、当館について知ってもらうとともに教育活動に協力することができた。	・校外学習受入れ件数が3校と少ない。子供たちの来館は子供たち自身の学習だけでなく、その後の家族の来館にもつながる。来館希望の学校が増えるよう積極的に案内をしていきたい。鑑賞体験を深めてもらうため、見学前ガイドの他にも学習メニューを用意するなど工夫の余地がある。（子供向けギャラリートークやワークシートなど）

(6)ミュージアムコンサート

事業内容		参加者数、実績（人）
作品を鑑賞しながら音楽を楽しむ館内ミニコンサート。 市内在住またはゆかりのある演奏家を起用して、新規層の来館を促進。 ・10/14 出演：巢立ひかり（ファゴット）、佐々木遥香（ハープ） ・1/12 出演：長瀬正典、柿本春香（リコーダー）		231
内部評価	取組内容	課題
	・当館展示室の響きの豊かさと不矩作品が創り出す空間で特別な時間をお楽しみいただくことができた。 ・R6年度は浜松市文化振興財団への寄付金も活用し1回追加し、計2回開催できた。コンサート来場者へのコンサートに関するアンケートも初めて実施した。アンケート回答者76件のうち半数が来館2回目以上で、その9割がコンサート目当てで来館。また初めて来館した方のうち65%もコンサート目当てで来館している。コンサート満足度は100%である。	コンサートへのファンが一定数おり、定着してきていると同時に、新規層の来館を促すという目的も果たしている。アンケートへのご意見も参考にしながら今後も継続していきたい。

3 その他

様々な人に開かれた美術館とし、施設・設備の充実と健全運営を目指します。

(1) 来館者アンケート

スタッフ対応満足度	施設満足度	施設に望むもの
95%	97%	カフェコーナー55%、常設展示室23%、 図書コーナー14%、その他8%

※満足度は、来館者アンケートにおいて「満足」「やや満足」と回答した割合

(2) 美術館設備

市民ギャラリー貸出実績	令和6年度修繕の状況
所蔵品展期間中のみ実施 令和6年度：11団体 利用率 R5年度：55.8%→R6年度：69.7% 利用者数 3,585人→4,968人 利用率昨年比13.9%増 利用者数は3割増 ホームページでの利用案内や空き状況表示が引き続き成果をあげている	指定管理者実施分 ・耐火金庫修繕 ・望矩楼銅板修繕 ・1F機械室煙感知器取替修繕 ・アプローチ坂木製手すり修繕 ・事務室空調機修繕

(3) 展覧会等の情報発信

令和6年度に実施した広報活動等
・美術関係誌へ展覧会情報掲載のほか、メディア取材・撮影は地元紙以外にも、全国紙、建築雑誌、イベントお出かけ情報誌など対応。 ・特別展のプレスリリースを毎回作成し郵送・メールにて送付したことで、県内ラジオへの学芸員の出演依頼（K-MIX、静岡シティFM）や、NHK静岡（テレビ・ラジオ）での紹介、NHK日曜美術館アートシーンでの展覧会紹介の機会などメディア露出の機会が増加した。 ・公式SNSを活用した情報発信（Instagram、X公式アカウント。財団の公式アカウントとも連携し発信）フォロワー数も順調に増加（Instagram：R5年度末800→R6年度末1230、X：R5年度末333→R6年度末511）。イベント開催もSNSで告知しSNSを見ての来館も複数みられる。 ・引き続き年間カレンダー、特別展案内を市内県内の公共施設、全国の美術館等へを発送し周知・来館を促進。財団発行の季刊誌で、展覧会開催情報掲載のほか、秋野不矩作品の解説を館長が執筆し掲載。アクトシティ友の会会員（約5000名）ほか市内外に配架。